

考えの形成のための手立て 2学期

学年	単元	構造と内容の把握	精査、解釈	考えの形成	チェックポイント項目
1年	うみのかくれんぼ・じどう車くらべ	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標とゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。 ・「とい」と「こたえ」を確認し、大事な言葉をキーワードをもとに見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『うみのかくれんぼ』では、それぞれの生き物の「なまえ」、かくれる「ばしょ」、「からだのとくちょう」、「かくれかた」を色分けして線を引 ・『じどう車くらべ』では、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を色分けして線を引、表にまとめ比較させる。また、「つくり」がどの部分の説明なのか、挿絵に丸を付けて確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『うみのかくれんぼ』では、図鑑の中から自分で選んだ生き物について、教科書と同様に色分けして線を引、キーワードを表にまとめる。その表を基に、教科書に倣って、「なまえ」と「ばしょ」を説明する文、「からだのとくちょう」を説明する文、「かくれかた」を説明する文をつなぎ文章にさせる。 ・『じどう車くらべ』では、教科書の文章から色分けして見つけた「しごと」と「つくり」をもう一度説明する文章にし、「しごと」と「つくり」を「そのために」でつなぐことや、文末表現について確認させる。はしご車について、図鑑から「しごと」「つくり」を見つけ、ワークシートにまとめ、教科書に倣って文章化させる。また、図鑑の中から自分で選んだ自動車についても、はしご車と同様の手順で「しごと」と「つくり」について説明する文章を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」とそれに合った「つくり」が書けている。 ・「しごと」とつくり」を「そのために」でつないでいる。
2年	どうぶつ園のじゅうい・紙コップ花火の作り方	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標とゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。 ・『どうぶつ園のじゅうい』では、「朝」、「お昼前」、「お昼すぎ」、など、時間的順序を表す言葉を意識させる。「～からです」「～ので」など、わけを表す言葉にも着目させる。 ・『紙コップ花火の作り方』では、「まず」「次に」「そして」「さいごに」など、順序を表す接続語を意識させる。 ・文章の構成を示す、4つのまとまりを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『どうぶつ園のじゅうい』では、「いつ」「どんな仕事」「そのわけ・工夫」の部分を色分けして線を引かせる。毎日の仕事と、この日だけしたことを分けて捉えさせる。 ・『紙コップ花火の作り方』では、実際に紙コップ花火を作り、わかりやすかった説明やポイントは何かを見つけさせる。筆者の説明の工夫である、順序、長さや数、大きさ、絵や写真の4つのポイントを色分けさせ、視覚的にわかりやすくする。それぞれの写真がどの文章に対応しているのか、ページ数や行数を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『どうぶつ園のじゅうい』では、一番気になった仕事を選び、そのわけをグループで共有させる。自分の身の回りのことと比べて考えたことを書かせるために、動物と関わった経験や、自分が病院に行ったときのこと、係の仕事など、普段の生活から考えられることをグループで伝え合う活動をさせる。 ・『紙コップ花火の作り方』では、使ってみたい筆者の考えを選び、友だちと共有させる。教師の例文を示し、接続語や工夫のポイントについて確認させる。自分が選んだおもちゃの作り方を書く際に、難しいと感じたところや、上手に作るための工夫などをメモさせておく。そのメモや作りながら撮った写真に番号を付けさせる。4つのまとまりで書けているかを意識させるために、「前書き・材料と道具」「作り方」、「楽しみ方」を分けて書かせる。書き終えた文章を見直し、その都度ペアで確認して、良さを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 『どうぶつ園のじゅうい』 ・筆者の仕事の中で、驚いたことやもっと知りたいと思ったことが書けている。 ・その理由が書けている。 『紙コップ花火の作り方』 ・順番がわかる接続語を使っている。 ・筆者の説明の工夫を使っている。 ・絵と文章の内容が合っている。

3年	すがたをかえる大豆・食べ物のひみつを教えます	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標とゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。 ・構成（はじめ、中、終わり）問いと答え、筆者の考えを意識させる。 ・順序を考えながら整理させる。つなぎ言葉を意識しながら、文章構成を捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味調べが必要な言葉を、辞典で調べていく中で、本文に合う内容を取捨選択させる。 ・問いの文がないこと、問い文を考えさせる。 ・「初め」「中」「終わり」の構成や、「中」に書かれている具体的な例を確認し、ワークシートにまとめる。 ・「おいしく食べるくふう」と「食品」を色分けして線を引き、構成が視覚的にわかりやすくなるようにする。 ・段落がくふうごとに分けられていることを確認し、段落の一文目に大事な文があることに気付けるようにする。 ・写真が文章のどこを示しているのかを線でつなぎ、写真の役割に気づくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ・「すがたをかえる〇〇」の本を用意し、他の食品にも興味を持てるようにする。 ・自分が選んだ食品について、「おいしく食べるくふう」と「食品」を図や表で整理する。 ・例の順序を考えさせる。「中」の部分を説明する順番を決め、図や表に丸や番号をつける。順序を考えるとときに、効果的に相手に伝えるために、簡単なものから、複雑なものに工夫して文章を構成させる。 ・教師の例文を示して全体で話し合うことで、「一つの段落に一つのくふう」「中心となる文がはじめ」「つなぎ言葉」「れいのじゅんじょ」など必要なポイントに気付けるようにする。 ・選んだすがたを変えた食品と、食材のくふうが合うように考える。 ・順序を意識しながら、つなぎ言葉選び、文章を完成させる ・ワークシートや掲示物、答えに赤線を引いた教科書でふり返る。 ・自分の調べたくふうや例が、教科書の例のどれに当てはまるか考える。 ・チェックシートを用意し、自分で文章を読み返しやすくする。また友だちと文章を読み合って確認する。 ・作った食べ物のひみつブックを読み合い、①書き方のよいところ②内容のよいところを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの段落に1つの工夫 ・中心となる文が段落の初め ・つなぎ言葉 ・例の順序
4年	未来につなぐ工芸品・工芸品のみりよくを伝えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標とゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。 ・伝統工芸について関心をもたせる。自分で興味を持った伝統工芸について調べ、そのリーフレットを作ること、そのために本文で書き方や伝え方の工夫を学習するという見通しを持たせる。作成したリーフレットを廊下に掲示し、他学年、特に高学年に見てもらおうことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「初め」「中」「終わり」のまとめりごとに、中心となる語や文を見つけ、要約させる。 ・筆者の伝えようとしていることを捉えるために、考えと事例との関係を明確にさせる。 ・要約した文章を紹介しながら、筆者の考えについて考えたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例を基に、情報整理と組み立てがリーフレットにどうつながるのかを考えさせる。 ・例を掲示し、「工芸品のみりよく」「そのよさが伝わる具体例」を色分けさせる。 ・「未来につなぐ工芸品」で学習した書き表し方の工夫を活かして書かせる。 ・相手意識をもって書かせる。 ・チェックシートをもとに文章が書けているか確認させ、出来上がった文章をペアで読み合わせる。その後、気付いたことを伝え合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く。 ・説明の工夫を書く。（みりよく・良さを伝える具体例）

5年	固有種が教えてくれること・自然環境を守るために	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標とゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。 ・文章を読んで気がついたことや初めて知ったこと、調べたいことを共有し興味を持たせる。 ・初め・中・終わりの役割を復習し文章構成を考えさせる。 ・初め・終わりの部分から筆者の主張を整理し、要旨をまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく出てくる単語や接続語をもとに各段落を要約させる。 ・相手に伝わりやすい文章にするための工夫を学ぶことをめあてにし、筆者の論の進め方を調べさせる。 ・グラフや表がない文章とある文章を比較し、筆者の立場・読者の立場でグラフや表の効果を考えさせる。 ・グラフからわかることと筆者の考えを分けて書くことの効果を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書きたいことについて調べ、ワークシートにまとめさせる。自分が選んだグラフや表から分かることと、自分の感想を分けて、ワークシートにまとめさせる。 ・『固有種が教えてくれること』に使われている筆者の論の進め方を、想起させる。 ・例文から使われている書き方の工夫を探し出し、色を分けて線を引く。 ・書き上げた文章をチェックシートをもとに推敲する。 ・友だちの文章を読み、気がついたことや工夫できていることを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表から分かることを書いている。 ・自分の感想や考えを書いている。 ・終わりの部分の主張を強く書いている。
6年	『鳥獣戯画』を読む・発見、日本文化のみりよく	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標とゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。 ・絵と照らし合わせながら読み、筆者の評価を捉えさせる。 ・筆者が絵のどの部分を取り上げているのか、何に着目しているのかを本文に線を引かせて読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめさせる。 ・観点を「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方」と明確に提示する。提示した項目ごとに、個人で考え、グループで検討し、全体で共有していく。「論の展開」では、絵についての部分・絵巻についての部分を分けて考えることで、考えを整理できるように支援を行う。「表現の工夫」では、体言止め・「はっきよいのこった」などの表現に着目させ、その効果を話し合わせる。「絵の示し方」では、1枚の絵巻を分けて示すことの効果について考えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化のよさを伝える書き方を考えて、表現の工夫を活かした文章の下書きをまとめさせる。 ・書くときのポイントを意識しながら書けるように確認を行う。 ・簡単に書くところと詳しく書くところを区別しながら書かせる。 ・事実と感想、意見を区別しながら書かせる。 ・原稿用紙を児童が書いた文章の書き換えを行いやすいように工夫する。 ・書き終えた文章を読み直し、自分の文章の振り返りを行い、良さを伝えるための文章の工夫について自己評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に書くところ、詳しく書くところの区別 ・事実と感想、意見の区別